



留学生は「日本」をどう見たか

—2017年度 岐阜大学日本語・日本文化研修留学生の日本研究発表会—



いま、外国から来た人たちは、とても身近な隣人です。彼らは、日本の社会・文化をどのように見て、どのように感じているのでしょうか。韓国・スウェーデン・タイ・中国から岐阜大学に留学している日本語・日本文化研修留学生の1年間の研究の成果を発表します。

「日本語・日本文化研修留学生」とは

岐阜大学留学生センターは、毎年10月に日本語・日本文化研修留学生（略称日研生）を迎えます。日研生は翌年8月までの約1年間、日本語と日本文化について学び、その総仕上げとして修了論文を執筆します。論文のトピックは、学生一人ひとりが自分の興味のあるものを選び、教員の指導を受けながら論文を完成させます。岐阜大学の日研生コースは、2001年度に1期生を受け入れ、今回研究発表をする学生たちは16期生となります。彼らの研究成果を、ぜひ皆様にお聞きいただきたいと考えております。

日時 2017年8月6日（日）13：30～15：20（開場13：00）

会場 岐阜大学サテライトキャンパス（スカイウィング37 東棟4階）

発表学生・発表題目（発表順）

1. シリワット・コッチャコン（タイ）
日本人女性とタイ人女性の化粧意識・行動の比較
2. モールップ・エミル（スウェーデン）
北欧人の行動様式 —「ヤンテの法」とは何か—
3. 許 竣碩（ホ ジュンソク・韓国）
韓国人の日本認識について —姜沆（カンハン）の『看羊録』を中心に—
4. 梁 霄（リョウ ショウ・中国）
日本のあいさつ語の特徴及び日中あいさつ語の比較

参加費無料 定員 80名

申し込み：不要（当日直接会場へお越しください）

駐車場：有料（スカイウィング37）

主催：岐阜大学留学生センター

問い合わせ先：岐阜大学留学生センター

電話：058-293-2138, 3392

